

史跡めぐり

山中吾朗

神於寺(神於町)と雨乞いの習俗

神於山の南麓に位置する神於寺は、天武天皇 12 (683) 年、勅願により役行者が開基したと伝える古刹です。神於山はかつては岸和田周辺の平野部のどこからでも見えた山で、古くからその名の通り、「神の山」として崇められていました。神於山の北東斜面から弥生時代の流水文銅鐸が出土していることも、そのことを裏付けています。

「神於寺縁起絵巻」によれば、天武天皇 12 年に寺が開かれると、役行者との約束によって朝鮮半島から雷神(宝勝権現)が飛来して山中に鎮座しました。今も山内に鎮座する宝勝権現社がそれにあたります。雷神は麻生郷の鱧崎(貝塚市津田)の松を経て、神於山に飛来しました。付き従った竜神は神於山の北西に鎮座し、これが意賀美神社となりました。意賀美神社境内にある滝は雨降の滝と呼ばれ、ここで祈祷すればたちまち雨が降ると信じられていました。

ところで、これとよく似た縁起が葛城山頂の八大竜王社にもあり、八大竜王社の場合は、弘法大師が祈祷すると脇浜浦(貝塚市脇浜)に竜王が出現し、さらに葛城山頂に鎮座したとされています。葛城山も神於山もいずれも古くから雨乞いの神として信仰されてきましたが、葛城山は脇浜に、神於寺は鱧崎に竜神や雷神が現れたのは、脇浜は近木川の、鱧崎は津田川の河口部にあたりますので、川を遡ればそれぞれ葛城山・神於山にたどり付くという地形的な理由が、両縁起の微妙な違いとなって現れたものと考えられます。いずれにせよ、瀬戸内式気候に属し、夏に雨が少ない泉州地方の気候風土がこうした縁起を生み出し、また雨乞いの習俗などとして最近まで伝えられてきました。塔原で毎年 8 月に行われている葛城踊り(大阪府指定無形民俗文化財)は、現在も続けられている数少ない雨乞いの踊りです。

郷土資料館の資料から
岸和田城図

承応 2 (1653) 年に、岸和田城の石垣修築の許可を幕府に願い出た際に作成された絵図で、現在残されている岸和田城の絵図としては、国立公文書館内閣



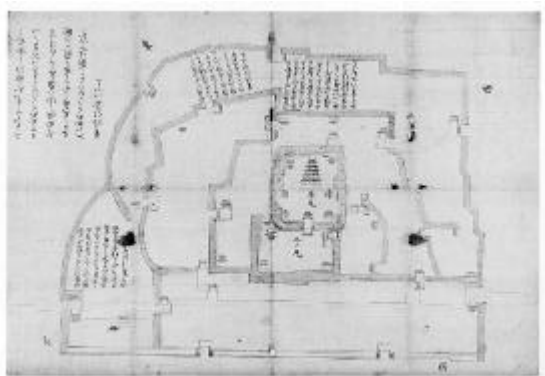
↑ 神於寺

文庫所蔵の正保2(1645)年の絵図に次いで古いものです。

裏面には当時の藩主岡部宣勝の花押が据えられています。本丸には五層の天守閣が描かれ、その周りには7基の櫓・門が建ち並んでいます。二の丸にも城門と四隅に各1基ずつの櫓があり、その内、北隅の櫓は伏見城から移築された伏見櫓です。

修築を願い出る箇所には朱で印をつけ、どのように修築するのが説明されています。江戸時代には城の修築の際には必ず幕府への許可申請が必要とされ、無断で修築すれば謀反の疑いをかけられました。そのためこうした絵図が多く残されて、当時の城の様子を伝えてくれる貴重な資料となっています。

(やまなかごろう：郷土資料館学芸員)



↑ 岸和田城図

けがした野鳥を見つけたら

風間美穂

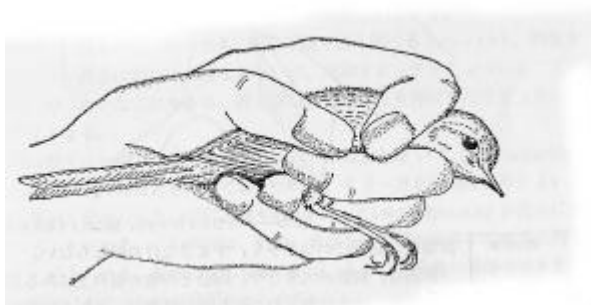
自然資料館には、いろいろな理由で動けなくなった野鳥が持ち込まれますが、当館は救護施設ではないので、手術や投薬はしません。しかし、一時保護のアドバイスは行うことができます。なんだそれだけかと思われるかもしれませんが、この時の処置が鳥の命を左右するといっても過言ではありません。今回は、このような鳥を見つけたとき、どうすればよいかを紹介しましょう。

こんな時はすぐ病院に！

鳥が野外の地面でうずくまっている場合の多くは、重体に陥っていることを示しています。保護して、早く病院へ運びましょう。その際、しっぽを引っ張ったり、胸を押さえてはいけません。翼の上から体をそっと支えましょう。暴れる時は、布袋などで全体を包んで静かにさせましょう。サギなどを捕まえる場合は、十分注意してください。目をねらつくばしでつついてくることがあります。ワシやタカのなかまの爪もたいへん鋭いので、保護する際は十分注意してください。

翼や片足がだらっとしている時は、骨折している可能性が高いので、すぐ病院へ運びましょう。遅くなると、骨がつかないときがあります。血が出ていたら、落ち着いて出血場所を確認しましょう。だらだらと血が流れている時は、そこを圧迫して出血が止まるかどうかやってみてください。どんな病院に運ぼうか？

大阪府には「野生鳥獣救護ドクター」という制度があります。これらの指定された病院に運ぶと診療してくれます。岸和田市内にも何カ所か指定病院があ



るので、泉南府民センター内にある「泉州農とみどりの総合事務所」でご確認下さい。
どうやって運ぼう？

鳥は鳥かごに入れて運ぶと思われがちですが、それはやめましょう。体が傷つく原因になります。一番良いのは段ボール箱です。下に新聞紙をひき、ふたをして暗くすると落ち着くので、安全に病院まで運べます。止まり木はいりません。ふるえている場合は、湯たんぽで保温してやるとよいでしょう。だからといって、使い捨てカイロは、酸欠の原因になるので入れないで下さい。授業時間などの関係で、数時間学校内で保護する場合も、これで大丈夫です。

こんなことはしないで！

素人処方はけがのもとです。骨折をしているからと副え木をあてたり、包帯でぐるぐる巻きにしてはいけません。また、動かないからといってゆすってもいけません。何もせず静かに病院まで持っていきましょう。

また、春先から夏にかけて、地面に下りている巣立ち前のヒナをケガと間違えて持ってこられることが多いようですが、これは誤認誘拐の可能性があります。外傷が何もなくて元気なら、そのままにしておきましょう。

野鳥を教育に活かそう

ここまで書いたものの、けがした野鳥の多くは手当が終わっても野生復帰が難しいです。病院では、けがは治してくれますが、多くの場合その後の面倒はみません。けがが治ったけど野生復帰が難しいとか、長期のリハビリが必要という場合、学校で飼育してみてもはどうでしょう。こういうのは野鳥の生態を観察するよい機会です。この場合、府の制度である「野鳥救護ボランティア」に登録しましょう。野鳥を飼育することは法律で禁止されていますが、この制度に登録された場合、傷病鳥の飼養が認められます。

このように、野鳥救護に関しては、さまざまな制度で保証されているのですが、最後は鳥自身の生命力にかかっています。けがした鳥を保護する前に、最後まで自分や学校で責任が持てるかどうか考えましょう。どこかに何とかしてもらえばいいや、という考えは、ただの自己満足・甘えです。そういうことを念頭においた上で、子どもたち傷ついた野鳥を持ってきたときに対処することが、野生生物との正しいつきあい方だということを、認識してください。

(かざまみほ：自然資料館学芸員)

○ ● INFORMATION ● ○

■ 自然資料館特別展

「キシワダワニとそのなかまたち

～化石でたどる関西の350万年～」

今から350万～10万年前の関西地域に生息していたキシワダワニやゾウ、シカなどの脊椎動物の化石を展示し、関西地域の自然環境について広く紹介します。

■ 期間：2003年10月21日(火)～12月23日(月・

祝)

■ 休館日：月曜・月末・土日除く祝日の翌日

■ 時間：10：00～17：00(入館は16：00まで)

■ 場所：自然資料館1階ホール

■ 料金：一般400円・小中学生200円(岸和田市内の小中学生は、学習券持参で無料)・幼児無料

■ おもな展示資料：キシワダワニ実物化石・マチカネワニ頭骨・大型鳥類・ほ乳類の足跡化石など

■ 自然資料館：臨時休館のお知らせ

自然資料館は、特別展準備のため、10月17日（金）・18日（土）・19日（日）の3日間、臨時休館いたします。

■ 自然資料館：フィールドセミナーと室内実習のお知らせ

「秋のキノコ歩き」

- 対象：キノコに興味のある方40名（小学生以下は保護者同伴で）
- 日時：11月3日（月）10：30～15：30
- 講師：丸山健一郎氏（関西菌類談話会）ほか
- 場所：牛滝山周辺

「社寺林をめぐる観察会（樹木の観察会）」

- 対象：小学生以上40名（小学生は保護者同伴）
- 日時：2003年11月15日（土）10：30～16：00
- 講師：佐藤治雄氏（大阪府立大学名誉教授）ほか
- 場所：岸和田市意賀美神社・山直神社など

「植物化石をさがそう」

- 対象：小学生以上40名（小学生は保護者同伴）
- 日時：2003年11月16日（日）10：30～15：30
- 講師：塚腰実氏（大阪市立自然史博物館学芸員）・渡辺克典氏（きしわだ自然友の会）ほか
- 場所：岸和田市立中央公民館

- 申込方法：往復はがきかメール（携帯電話からは不可）で、参加者全員の〒住所・氏名・年齢（学年）・電話番号を記入の上、
・キノコ・・・10月15日（必着）

・社寺林・・・11月4日（必着）

・植物化石・・・10月25日（必着）

までに自然資料館「キノコ」「社寺林」または「植物化石」係まで。

いずれも、応募者多数の場合は抽選となりますので、あらかじめご了承ください。

■ 自然資料館：ミュージアムトーク 「化石でたどる関西の350万年」

特別展「キシワダワニとそのなかまたち」で展示されている資料について、解説を行います。

- 日時：2003年10月25日（土）13：30～15：30
- 場所：きしわだ自然資料館1階ホール
- 講師：谷本正浩氏（日本古生物学会会員）
- 定員：小学生以上40名（小学生は保護者同伴で）
- 費用：一般400円・小中学生200円（岸和田市内の小中学生は学習券の提示で無料）
- 申込方法：当日、13：00より受付

■ 郷土資料館：秋季特別展

「岡部長職・長景二代 - 近代岡部氏の肖像と事績 - 」

明治から昭和戦前期、官僚・政治家・閣僚等として政官界で活躍した、最後の岸和田藩主岡部長職とその子長景の生涯を、勲章・辞令類や書画等の遺品でふりかえります。

- 会期：平成15年10月2日〔木〕～11月30日〔日〕
- 会場：岸和田城天守閣1階展示室
- 時間：午前10時～午後5時（入場は4時まで）
- 入場料：大人400円 / 小中学生200円（岸和田市内の小中学生は学習券の提示で無料）
- 休館日：月曜日（但し10 / 13・11 / 3・11 / 24は開館します）

お願い [fromM] は、学校教職員に1部ずつお配りください。担当の方はお忙しいところ申し訳ございませんが、よろしくお願い申し上げます。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町6-5

きしわだ自然資料館

TEL (0724)23-8100 FAX (0724)23-8101

Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp

自然資料館ホームページ URL:

<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/sosiki/k-nature/>

Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です）

【from M】では、みなさまのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしております。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、投稿文の方も受け付けております。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、下記のところまでお送りください。電子メールでも受け付けております。なお【from M】はホームページ上でもご覧になることができます。ぜひご利用ください。